

群馬県立中央中等教育学校学校評価一覧表②（令和２年度版）（様式２）

羅針盤			達成度			改善状況のまとめ	学校関係者評価	次年度の課題
評価対象	評価項目	具体的数値項目	①	②	総合			
Ⅰ特色ある学校づくりに努めていますか。	1豊かな人間性、想像力を育成する教育活動を行っていますか。	①自ら積極的にあいさつをしていると自己評価している生徒が90%以上である。	B	C	B	「全ての基本は挨拶から」朝の挨拶運動を含め、職員自らの声かけ等、積極的に行って来ている。 今回も生徒の自己評価は高いが、保護者評価は低い。生徒は学校での清掃ではアルコール消毒にもよく取り組んだ。これを機に、家庭においても環境美化を牽引してほしい。 全学年実施している朝の奉仕活動等を通して生活(学習)環境を整備し、生徒が自身の可能性を広げることができる環境をつくっていく。	今回のような全世界的な予想外の危機に直面したときに、皆のため世界のために何が出来るかを考え、行動することが出来る生徒を育成するためには、自分だけでなく他者のため、社会のために利他的に考え行動できる姿勢を身に付けることがより重要である。そのためには挨拶や清掃活動、奉仕的活動への取組が大切であるが、日々の清掃活動での子どもの姿こそが、それぞれの家庭の教育に対する素の考えが表れているのだと思う。毎日の粘り強い指導で、子どもの意識を変えてほしいと思う。	「全ての基本は挨拶から」「心を開いて相手にせまる」という挨拶の持つ意味を理解し、より多くの声かけを行なっていく。 ・コロナ対策はまだ当分必要と思われる、清掃活動においては何よりも感染予防対策を実践することが最優先課題である。 ・生活(学習)環境の整備推進と同時に本校生徒(現役生・卒業生)の頑張り、善行を積極的に紹介をして母校に誇りを持てるように努めていく。
		②意欲的に清掃活動に取り組んでいると自己評価している生徒が85%以上である。	A	B	B			
		③自分の学校が好きだと感じている生徒が85%以上である。	A	A	A			
	2国際的なコミュニケーション能力を育成する教育活動を行っていますか。	④英語や外国文化に興味を持っている生徒が90%以上である。	A	A	A	各習得段階において、指導場面に応じた多様で適切な教材を使用しつつ、スピーチやプレゼンテーション、ディスカッション、ディベート、洋書や英字新聞を読む活動等を行うことを通して、英語・外国文化・世界情勢について、興味関心が深まっている。	毎年FEWCプログラムの発表会を参観できることを楽しみにしていたが、実現できず大変残念であった。しかしながら、このコロナ禍の外部との接触が制限された中においても、各種研究団体や企業とのメールのやり取り等を積極的に行い、各自の研究内容を高めようと努力してきたことは評価できる。昨年度は発表時の、聴取側の生徒の「質問力」向上が課題であったが、メール等のやりとりによって、自分の力を達成するために外部とコミュニケーションをとる、質問する力は向上したように思う。	真の意味での国際コミュニケーション能力の育成に向けて、実際の場面で即興的に表現出来る能力、グローバルスタンダードにかなう論理構成力、プレゼン能力、意思伝達力等の育成に、前期・後期通して一貫して取り組んでいかなければならない。また、探究的な学習を重視した新しい指導の方向性や、年々高まる英語外部試験のニーズに対応するため、各発達段階ごとの具体的な目標や指導方法を検討していく必要がある。
		⑤イングリッシュキャンプやスピーチコンテストなどの英語科行事や、海外修学旅行に満足している生徒が85%以上である。	A	A	A			
		⑥全ての生徒が、学校行事や授業等で我が国や世界の国々の文化・伝統に触れる経験をしている。	A	A	A			
Ⅱ生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	4基礎・基本の確実な理解を図る指導を徹底していますか。	⑦授業内容を理解できていると感じている生徒が80%以上である。	A	A	A	一昨年度から始めた前期後期それぞれ1コマのアクティブラーニングの授業を職員全員で参観するという校内研修、公開授業研修等が、新型コロナウイルス感染症防止対策のため実施できず、今まで培ってきたアクティブラーニングの知見にさらに工夫を加えた授業の実践が求められ、リモート授業も意識した教材研究、授業実践に力を注ぐ必要があった。	学校生活全般で他との接触が制限される中、協働学習の実施を諦めるのではなく、個々の先生が工夫をし、学校全体で協働学習の雰囲気を持続しようとしたことは良かったと思う。昨年度と比較すると充分ではないと思われるが、それでも課題を改良し、自らその解決に向けて資料を集め、それをもとに考察する力は、一人一人向上できていると思われる。ピンチはチャンスなので、コロナ禍においても実施できる効果の高い協働学習のやり方を開発していったほしいと思う。	・人と人との距離、特に生徒同士、教師と生徒の距離を以前よりも近づけることが出来なくなり、アクティブラーニングの理念を持ちながらも新しい視点からの授業の組み立てが求められる中、一人一台のコンピュータ端末の活用も含め、個々の教員の実践や工夫を、学校組織としてくみ上げ、職員全体で共有し、コロナ禍以前よりも生徒の興味・関心を高め、基礎・基本の定着と課題発見、課題解決能力の向上を目指す。
		⑧少人数指導に満足している生徒が85%以上である。	A	A	A			
	5生徒の学習意欲を喚起する指導が充実していますか。	⑨学習動機が明確な生徒が85%以上である。	B	A	A	二者面談、三者面談を通じて、生徒一人ひとりに対して適切な助言をすることができた。 二人一宮パソコンおよび学習アプリゲージョンを配布し、生徒の家庭学習を支援することができた。	生徒の実態を正しく把握し、課題や宿題等の量を調節し、内容の精選を行う姿勢を今後も継続してほしい。自己の学習内容を見直し、その定着に応じて、自分で計画して学習に臨む力を育成するとともに、多感な思春期の入口である前期課程(中学校3年間)、学習内容やシステムが変更になる4年生(高校1年生)においては、不登校等に陥らないよう配慮をしてもらいたいと思う。	・一人一台パソコンをさらに有効利用すべく、教員側のスキルアップをはかりたい。 ・学校と家庭との連絡ツールを活用することによって、生徒の家庭学習をいっそう充実させたい。
		⑩家庭学習の習慣が身に付いている生徒が80%以上である。	B	A	A			
	6教師は主体的に授業改善に努めていますか。	⑪すべての教師が、「言語活動の充実」「学び合い学習」「ICTの活用」等のテーマを設定し、授業改善に取り組んでいる。	A	A	A	コロナ禍の中、オンラインによる配信授業に必要な環境および授業アイデアについての情報を提供するとともに、FEWC人材育成グループリックに基づく授業評価アンケートを実施し、授業改善に向けての支援	SGH活動が「FEWCプログラム」に発展継承され、そのシステムが学校全体で共有できている点は評価できる。令和4年度から高校で新学習指導要領が実施されるが、その内容に則り5年後、10年後の中央中等教育学校のあるべき姿を描いてもらうとともに、整備されたICTの有効活用についても研究を行ってほしい。今年度は実施できなかった授業改善のための公開授業の復活も期待したい。	・コロナ禍の状況で最も大きく失われた外部機関との連携について、状況の変化を見ながらできる限り回復を図ると同時に、今後もこのような状況が生じた場合に、オンラインでどのような連携が可能であるかについて模索することにより、より効率的かつ効果的な連携の仕方についても検討していきたい。 ・来年度以降の重点強化項目となる探究型学習の推進について、情報提供、職員間での体験の共有化、及び職員研修の充実化を図る。
		⑫すべての教師が研究授業を行い、授業参観を年2回以上実施している。	A	C	B			
Ⅲ生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	7生徒が良好な人間関係を築けるよう組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑬教師との信頼関係を築けていると感じている生徒が80%以上である。	A	A	A	全職員で生徒情報を共有して、それぞれの生徒に適切なタイミングで指導、支援を行なっている。 人の数だけ価値観があることと他者を認めてあげることの重要性を伝えている。	LGBTの生徒への配慮として、制服検討委員会女子の制服にいち早くスポンを導入する等、今後も生徒一人一人の個性を尊重し、多様な価値観への迅速な対応ができる学校であってほしい。	・生徒のことを家族だと想って、すべては生徒の成長(健全育成)のために全職員で生徒情報を共有し、あらゆる場面で先手を打つ生徒指導を目指す。
		⑭クラスの人間関係が良好だと感じている生徒が80%以上である。	A	A	A			
	8生徒は健全で健康的な学生生活を送っていますか。	⑮自分の健康について意識している生徒が80%以上である。	A	A	A	特に大きな問題はなかったと思われるが、後期生の自己評価がやや低い。学習や進路に対するストレスや睡眠時間が十分確保できない、などが要因と思われる。	どの学校でも増えつつある登校拒否、不登校等の問題の裏には、いじめ等の外的原因だけでなく、成功体験の喪失や保護者からの期待に応えられない自分の姿、理想と現実のギャップ等の心的、精神的な内的原因が潜んでいることが多いと聞。身体の健康はもちろんこうした心、精神の健康について、部活動や特別活動、道德の授業等を通じて寄り添える体制作りを強化してほしいと感じる。通級指導の積極的活用については評価できる。	・コロナの影響で今年度の生徒保健委員会活動は不十分だった。来年度は口腔ケア対策や視力対策を実践したい。 定着した3年生の夏休み前の部活動オリエンテーションが、各種大会等での目に見えた成果につながることを期待したい。また、部活動の意義やスポーツの楽しさ等も伝えたい。後期生徒の委員会活動の活性化に向けた手立てを考えたい。
		⑯部活動や委員会活動に取り組んでいる生徒が75%以上である。	A	A	A			
Ⅳ生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	9各学年の特性に応じた計画的な進路指導を行っていますか。	⑰＜前期課程＞自分の特性と将来の職業とについて関連付けている生徒が70%以上である。	B	A	A	進路講演会を実施し、生徒自身に自分の進路を考える機会を提供した。 進路講演会を実施し、生徒自身に自分の進路を考える機会を提供した。 文理選択、科目選択、志望校選択等の場面における個別指導を充実させた。 三者面談にあたって、適性検査等のデータを活用した。	競技カタルの名人や実業団駅伝の主力選手等、大学を卒業し社会に出た卒業生が多方面で活躍しているのが、中央中等の進路指導の懐の広さでもある。コロナ禍の中でも低学年からのキャリア教育への取組を積極的にし、一人一人の視野を広げて、世界の舞台上で活躍できる人材の育成に力を注いでほしい。	・キャリア教育については、特別活動部による年間計画およびFEWCにビルト・インする形で実施し、成果をあげた。 ・新学習指導要領をふまえたカリキュラム・マネジメントの構築に着手したい。具体的には、大学と連携したアカデミック・インターンシップ等が考えられる。
		⑱＜後期課程＞自分の特性と将来の職業とについて関連付けている生徒が80%以上である。	A	A	A			
		⑲＜後期課程のみ＞進学意思が明確な生徒が90%以上である。	A	A	A			
		⑳子どもの進路希望を理解している保護者が85%以上である。	B	A	A			
Ⅴ開かれた学校づくりに努めていますか。	11積極的な情報発信に努めていますか。	㉑学校からの進路情報提供に満足している生徒・保護者が80%以上である。	A	A	A	PTA進路学習会を実施し、本校生徒にとって必要な進路情報を発信した。 生徒の発達段階にあわせ、各学年のニーズに応じた行事を行った。	新共通テスト元年という変化に加えて、新型コロナウイルス感染症防止対策を目的とした個別試験等の急な変更もあり、今後も適切な進路情報の提供が大切になる。講演会や関連行事の実施が困難な状況が続くとも考え、情報提供について様々な工夫をお願いしたい。	・進路関係の諸行事については、スクラップ&ビルドの考え方を基本として、その精選を継続する。また、進路情報については、各学年の進路環境に応じた最新の情報を、引き続き提供する。
		㉒進路講演会や進路関連行事を各学年、年2回以上開催する。	A	A	A			
	12保護者や地域等との連携・協力に努めていますか。	㉓We b ページを月3回以上更新する。	A	A	A	コロナ禍で授業参観等の中止が余儀なくされ、保護者から学校の様子を知りたいという声が高まり、Webページへの関心も例年よりも高く、更新回数を増やしてほしい等の要望がある。しかし、こうした時だからこそ親子の対話を増やす必要も感じられ、安易に更新回数を増やすことは控えた。 学校説明会、公開授業、授業参観、オープンスクール等の中止を余儀なくされ、情報の発信が十分に出来なかったが、Webページ上で学校説明会や授業公開を行う等の工夫を行い、何とか乗り切った。	「Web学校説明会」については、準備期間の少ない中でコロナ禍で中止となってしまった学校説明会、オープンスクール等の代わりとして実施できたことは良かった。が、その効果について客観的な評価が必要である。またWebページを使っての情報発信をより多くしてもらいたいという保護者からの要請があることは理解できるが、Webページばかりにその機能を依存せず、先生と生徒、生徒と保護者のフェイスツーフェイスの情報伝達をしっかりとしてもらいたい。	・Webページのタイムリーな更新は今後も継続するが、保護者からのWebページで学校生活の様子日々発信してほしいという要望に対しては、安易に更新回数を増やすのではなく、学年通信の発行や子どもの口を通じての情報伝達等をより充実させていきたい。 ・「Web学校説明会」の内容を充実させる努力を続け、新型コロナウイルス感染症の終息が遅れ実施できない可能性がある学校説明会やオープンスクールの代替として、その役割を果たせるように準備をしていきたい。
		㉔学校と家庭との連絡が緊密に行われていると感じている保護者が80%以上である。	A	A	A			
Ⅵ生徒の安全確保を図っていますか。	13生徒の安全に対する意識喚起に努めていますか。	㉕学校は、生徒・保護者による地域貢献活動を年1回以上行っている。	A	A	A	例年2回の実施を継続してきたが、2回目は健康増進活動にあて、地域貢献活動は昨年度に続き春に1回だけとした。	新型コロナウイルス感染症防止の名目で、計画していた保護者、地域等と連携して行う多くの行事を実施することが出来なかったことは残念であるが、一斉メールや独自の通信等を工夫して、保護者・地域等とのパイプはしっかりとつないでおく努力を継続してもらいたい。	・一斉メールの適時利用について引き続き努めていきたい。 ・PTA広報誌は保護者にとって必要な情報をより選りすぐり紙面の刷新なども検討しながら提供したい。 ・地域貢献活動については活動実態の周知が進んだと考えるが、さらに継続的に努力したい。
		㉖交通安全教室を年1回、防災訓練を年2回実施する。	A	A	A			
	14施設・設備の安全管理を徹底していますか。	㉗学校の施設・設備が整備され、安全であると感じている生徒・保護者が80%以上である。	A	A	A	日頃より与えられたかけがえのない命について考え、自他共に命を守るための指導を行なった。また、生徒主体の活動として全生徒が当事者意識を持つように昼休みの放送を利用して全校生徒アンケートをもとに交通事故未然防止活動を実施した。 安全点検での指摘件数は減っている。予算不足によって保留もあるが、問題点は指摘された直後に概ね解決された。照明も増設された。	何よりも大切なものは命である点を、子どもたち一人一人が実感できる指導を工夫してほしい。特にコロナ禍の制限の多い生活の中で命を絶つ若者が多い社会の状況を鑑み、交通事故防止とともに自分を大切にする意識を高めてほしい。 コロナ禍においても密を避ける工夫を講じながら、本年度不十分だった防災指導、安全対策を行ってほしい。	・交通事故、災害は命に直結することを念頭に、生徒が当事者意識を持つように各種指導を行なっていく。何よりも守るべきものは命であることをより生徒が実感できる内容にしておく。 今年度コロナの影響で不十分だった防災指導や不審者対策などによる安全指導も実践したい。